

全国高校総合文化祭オーディオピクチャー部門で優秀賞受賞

大垣市長に報告

総文祭
大垣工高が全国優秀賞
放送部 オーディオピクチャー部門



小川市長(手前左)に受賞を報告する(右手前から)倉橋さんと早瀬さん。大垣市役所で

大垣工業高校(大垣市南若森町)の放送部が、今月二―三日に広島市で開催された全国高校総合文化祭の放送部門「オーディオピクチャー部門」で、全国最高の四校が選ばれる優秀賞に輝いた。

同部門では、二十五枚以内のスライド写真と音声を使い、五分間で郷土の話題を発表する。大垣工業高は「生活の代償」と題して、学校近くにある石灰岩の産地の金生山を取り上げた。業者から許可を得て採掘現場や石灰工場に入ったたり、地元住民から話を聞いたたり

して、石灰を得るための代償として削られて失われていく山の様子を伝えた。

顧問の酒井真司教諭(左)の指導を受けながら、昨年九月十月に制作。特別審査員で映画監督の大林宣彦さんからも「こんな風景は見たことがない」と高い評価を受けたという。

制作を担当した倉橋直宏さん(右)は情報技術科三年生。早瀬将悟さん(左)は同校が十二日、市役所の小川敏市長を訪問し、受賞を報告。倉橋さんは「いろんな場所に足を運んで、五分間の作品を作るのに多くの時間を使った」と振り返り、早瀬さんは「出場して学んだ経験を後輩に伝えていきたい」と話した。(滝田健司)